

前橋空襲爆撃照準点マンホール等を設置し完成披露会を実施します

前橋空襲で米軍のターゲットとなった「爆撃照準点」にマンホールを設置します。

また、これに併せて、爆撃照準点の説明板と、旧町名「桑町」^{きゅうちょうめい くわまち}の案内板を設置します。

1 概要

爆撃照準点マンホールは、中心商店街の中央通りの丁字路にある下水道用のマンホールを交換する形で設置し、説明板、案内板については、丁字路近くのグリーンウォークのエントランス壁面に掲示します。

2 設置のいきさつ

本事業は、歴史まちづくり計画の「ヒストリックランドマーク整備事業」の一環であるとともに、今後開館を予定している「（仮称）前橋空襲と復興資料館」の関連事業です。

事業を実施するにあたり、一般財団法人ぐんま食と歴史文化財団の助成金を活用しました。

3 完成披露会

設置に合わせ、完成披露会を行います。

(1) 日時 11月30日(土) 午前10時から

(2) 場所 中央通りグリーンウォーク付近

(3) 内容

- ・爆撃照準点マンホール及び説明板、桑町案内板のお披露目
- ・安全祈願を目的とした、マンホールへの打ち水の儀
- ・群馬地域学研究所代表理事・手島仁さんによる解説

4 今後の展開

ヒストリックランドマーク整備事業については、一部の既存道路案内板を活用し、旧町名案内板として改修を進めていく予定です。

担 当 都市計画課

景観・歴史まちづくり係

電 話 027-898-6974（内線：3977）

桑 町

くわまち

前橋空襲爆撃照準点マンホール等の設置について

前橋空襲の爆撃照準点

爆撃照準点とは

- 米軍が爆撃地点を指定する際に、いくつかの区画で同時に火災が発生するような地点を指定し、そこを目掛けて空爆を行ったとされ、その地点を爆撃照準点(又は爆撃中心点)と呼ぶ。
- 日本全国では65都市にあるとされ、仙台市には銘板、長岡市には碑が設けられている。
- 本市では、「前橋空襲と復興資料館検討委員会」における検討の結果、中央通りの丁字路付近であるとされた。
(右図のとおり)



デザインと設置箇所

～ 旧町名を記憶する場～

桑 町

くわまち

現在の中央通りを中心とする一帯はかつて「桑町」と呼ばれていた。

江戸時代から 昭和 41 年 (1966) まで



昭和 3 年 桑町 神武天皇山車 (片原通り 横山工場前)



桑町街ネオン



昭和 10 年頃の桑町通り

「前橋風土記」(貞享元年)に見える下之町が豎町・横町(横山町)・桑町に分かれて成立。町内に桑の大木があったことが町名の由来であると言われている。

江戸時代の「祇園祭り」では、藩主松平大和守家から「巴」の紋を賜ったが、松平家が「右巴」であったことから、「左巴」にして桑町の紋として使った。桑町の山車(祭屋台)の人形は牛若丸であったが、日露戦争後に神武天皇に替わった。

明治 27 年 (1894)、総社の天狗岩用水を利用した前橋電燈株式会社が創設されたとき、率先して電気をつけたのは桑町であった。明治 40 年 (1907) 刊行の『前橋繁昌記』によると、町内に土木 2、工業 2、衣服 9、荒物 12、雑貨 9、料理 4、飲料 4、乾物青物など 8、砂糖並菓子 6、医療 4、髪結銭湯 1 の商家が見える。明治 40 年頃まで桑苗市でにぎわったという。

桑町は連雀町、紺屋町、横山町、豎町などに囲まれた小地域だが、前橋切っつの目貫通りとなり、代表的な商店が立ち並んだ。中心六商店街が形成されると、ライバル商店街との競争から「ネオンアーチ」を共同事業として完成させ、桑町通りは「鈴蘭街」と呼ばれる賑わいを築いた。

設置：令和 6 年 11 月 前橋市(前橋市歴史的風貌維持向上計画・ヒストリックランドマーク整備事業)
※この事業は、「(一財)ぐんま食と歴史文化財団」からの支援を受けて実施しています。



ふりがな
Scan and
select
language



～ 前橋空襲を語り継ぐ場～

前橋空襲の爆撃照準点(中心点)

【前橋空襲を語り継ぐ爆撃照準点】

前橋市がアメリカ空軍 B29 の空襲を受けたのは、アジア・太平洋戦争終結の直前、昭和 20 年 (1945) 8 月 5 日午後 10 時 28 分から 6 日午前 0 時 8 分であった。

爆撃照準点をめがけ約 18 万発もの焼夷弾が投下され、この 1 回の空襲により市街中心部約 80% が焦土と化し、約 600 人の死者を出した。

右の図は、前橋空襲に使用された「リト・モザイク(爆撃中心点参照用集成図)」である。前橋空襲で指定されたとされる「102072」という数字は、最初の 3 桁が横座標、次の 3 桁が縦座標を表わす。

実際に爆撃地点を指定する際のルールによれば、「いくつもの火災区画で同時に火災が発生するように、なるべく人工あるいは天然の防火帯が交わる地点で、明瞭に確認できる特徴のある点」とされ、通常は道路の交差点であった。

このルールに従い縦横の交点を求めると、市道 02-390 と中央通りの交差点、すなわち、丁字の交差点(丁字路)だと推定できる(工藤洋三氏の見解より)。



リト・モザイク(爆撃中心点参照用集成図)
提供：工藤洋三



米国国立公文書館



ふりがな
Scan and
select
language



設置：令和 6 年 11 月 前橋市(前橋市歴史的風貌維持向上計画・ヒストリックランドマーク整備事業)
※この事業は、「ぐんま食と歴史文化財団」からの支援を受けて実施しています。

